

事業者排出量削減報告書

| | | |
|------------------------|---------------------------------|------|
| (あて先) 京都府知事 | | 22年 |
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） | 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名） | |
| 京都府城陽市平川横道93 | 株式会社山岡製作所 | 山岡祥二 |
| | 電話 0774 - 55 - | |

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

| | | | | | | |
|---------------------------|---|------------------------------------|------------------------------------|--------------------|------------------------------------|--------------------|
| 特定事業者の主たる業種 | 精密機械器具製造業 | | | | | |
| 該当する事業者要件 | <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） | | | | | |
| 計画期間 | 平成 19年 4月 ~ 平成 22年 3月 | | | | | |
| 基本方針 | 私たちは、自然との調和・地域社会との共生を考え、環境改善活動に取り組み、社会に貢献する。 | | | | | |
| 推進体制 | ISO14001 (JQA-E0322認証)の推進組織である「環境推進委員会」 | | | | | |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置 | 年度 | 設備、対象、工程等 | 措置内容 | | | |
| | 19-21 | 工場・事務所 | エアコン及び機械電力の削減 | | | |
| | 19-21 | 工場・事務所 | 照明及び事務機器電力の削減 | | | |
| | 19-21 | 車両 | 社用車燃料の削減・低燃費車への順次切替 | | | |
| 温室効果ガスの排出量等 | 排出区分 | 基準年度（実績） （18）年度 （二酸化炭素換算（t）） | 目標年度（計画） （21）年度 （二酸化炭素換算（t）） | 削減率 （計画） （%） | 報告年度（実績） （21）年度 （二酸化炭素換算（t）） | 削減率 （実績） （%） |
| | A 事業所等排出区分 | 1,110 t | 1,047 t | -5.7 % | 991.3 t | -10.7 % |
| | B 輸送車両排出区分 | t | t | % | t | % |
| | C その他排出区分 | t | t | % | t | % |
| | 排出合計 | *1 1,110 t | *2 1,047 t | -5.7 % | *4 991 t | -10.7 % |
| その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等 | 対策等の区分 | 目標年度（計画） | | 報告年度（実績） | | |
| | | 取組量等 | （二酸化炭素換算（t）） | | 取組量等 | （二酸化炭素換算（t）） |
| | 森林の保全及び整備 | （整備面積） | ha | （吸収量） | t | |
| | 府内産の木材の利用 | （利用量） | m ³ | （削減量） | t | |
| | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 | （売電量） | kwh | （削減量） | t | |
| | グリーン電力の購入 | （熱供給量） | GJ | （削減量） | t | |
| | 削減量等合計 | （購入量） | kwh | （削減量） | t | *3 t |
| 差引排出量 （排出合計-削減等合計） | *1 1,110 t | *2) - (*3) 1047.0 t | -5.7 % | *4) - (*5) 991.3 t | -10.7 % | |
| 特記事項 | 1. 基準年度より10.7%となり削減しました。 1) 本社工場は20年度比 3.9%減となり、引き続き電力削減及び燃料削減に取り組めます。 2) 田原工場は20年度比0.5%増となりましたが、基準年度より28%削減しました。 2. 今後の削減取組み 1) 機械設備の待機電力及び冷暖房温度管理の徹底、作業場集約及び窓断熱及び空気攪拌・間仕切りなどの電力削減を継続します。 2) 社用車燃料は全車燃費を把握し、運転車へのエコ運転意識植え付け及び運行効率向上により燃料削減に取り組めます。 | | | | | |
| 連絡先 | 担当部署 | | | | | |
| | 担当者氏名 | | | | | |
| | 住所 | | | | | |
| | 電話番号 | | | | | |
| | ファクシミリ番号 | | | | | |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入
 5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO₂排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン製造の採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。